

科目名	企業実習Ⅱ Factory Training II	科目コード	51590
-----	------------------------------	-------	-------

学科名・学年	環境都市工学科・4年（プログラム1年）
担当教員	衛藤 俊彦（環境都市工学科）
区分・単位数	履修単位科目・選択・2単位
開講時期・時間数	夏期休業中，60時間【内訳：その他60】
教科書	
補助教材	
参考書	

【A. 科目の概要と関連性】

実社会の企業等の仕事を体験することにより、学校での学習の意義を確認し、卒業後の進路決定の一助とすべき貴重な機会である。受講者は、実習実施責任者（学科主任）と実施科目指導教員（クラス担任）と相談の上、実習先を決定する。

- ・実習期間：夏季休業中
- ・1週間以上経費：実施経費は実習生負担
- ・保険：傷害保険に加入のこと
- ・事前指導：実習生は実習科目指導教員より、事前指導を受けること
- ・実習先での注意：実習生は企業等の実習責任者の指示に必ず従うこと
- ・発表：実習生は実習報告書を作成した上で、発表会において実習経過と内容を発表する

○ 関連する科目：卒業研究（次年度履修）

【B. 到達目標と学習・教育到達目標との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(F)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
① 企業等での仕事を体験し、技術者としての心構えや仕事に必要な知識を身に付ける。	75%	(f1)
② 企業等での仕事を体験し、技術者としての使命と能力について考える。	25%	(f2)

【C. 履修上の注意】

実際の仕事を体験することは意義ぶかく、将来への指針を得る機会とすることもできる。実習先では、真摯な態度で業務にあたること。

実習報告書や口頭発表では、事実の報告に加え、技術者としての使命や能力について、実習を通じて考察した内容に言及すること。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。60 点以上を合格とする。

- レポート（実習報告書, 25%）
- その他（発表会での内容 25%, 実習責任者から提出される実習証明書 50%）

【E. 授業計画・内容】

事前指導

実習 企業等において1週間以上

実習報告書の提出（企業等における仕事、作業内容や現場作業様子を理解しているかどうか見る）

実習発表会での発表による報告

企業実習責任者からの実習証明書の提出評価